



第8回奈良県地域デジタル化戦略本部会議



開催日：令和8年6月17日

本日の議題

議題 1

奈良デジタル戦略の進捗状況について

議題 2

Microsoft365を活用した業務効率化について

議題 3

業務効率化・質向上に向けたNARA AIの活用について



参考：奈良県地域デジタル化戦略本部設置要綱

（目的）

第1条 県民全てがデジタル化の恩恵を受けるよう、本県におけるデジタル化を推進するため、奈良県地域デジタル化戦略本部（以下「戦略本部」という。）を設置する。

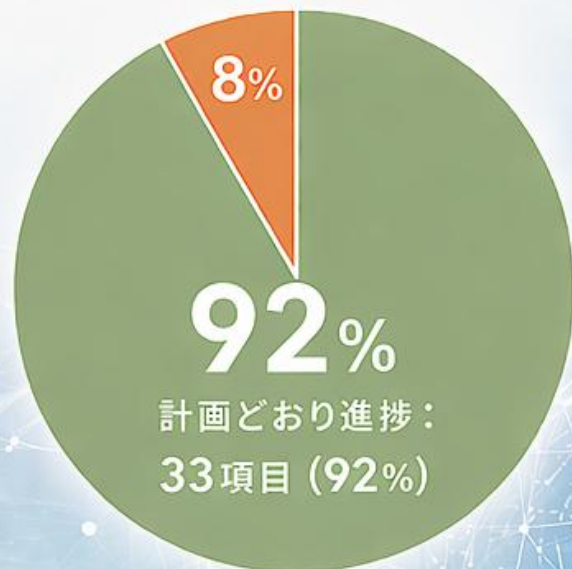
（所掌事務）

第2条 戦略本部は、次の事項を所掌する。

- （1）奈良デジタル戦略に関すること。
- （2）本県のデジタル化の推進に関すること。
- （3）その他デジタル化について必要な事項に関すること。

議題1 奈良デジタル戦略の進捗状況について

令和7年度～9年度 デジタル戦略実行計画（36項目）の進捗状況



■ 計画どおり進捗: 33項目 (92%)

■ 進捗に遅れがある取組: 3項目 (8%)



計画どおり進捗している主な取組

- 行政手続の徹底した電子化の推進
- 奈良スーパーアプリの運用・機能追加
- 奈良県森林クラウドシステム構築・運用
- デジタル技術を活用した公共ライドシェア
- β' 環境への移行



スケジュールを見直しながら進めている取組

- こども・子育て施策のデジタルサービス化
- CIM環境の構築
- 自動運転等・MaaSのデジタル技術を活用した公共サービスの提供（自動運転）



※各取組の詳細および個別の進捗状況は別紙資料をご覧ください。

議題 2 Microsoft365を活用した業務効率化について

主な取組

令和7年2月

- Microsoft365を導入
Teams（チャット・Web会議等）により、
所属を超えた連携を促進



令和8年1月

- 庁内ネットワークをインターネットに
直接接続する仕組みへ移行



令和8年10月以降

- 全職員が個人スマートフォン等で
Outlook予定表やTeamsチャット等を
利用できる環境の実現



Microsoft365を活用した主な業務効率化事例



通知・照会業務の効率化（SharePoint）

- SharePoint上に通知・照会専用サイトを構築
- 情報を集約し、即時共有を可能に
- 情報共有・検索の利便性が向上



アンケート・受付業務の簡素化（Forms）

- Formsを利用したアンケート（照会・受付）を実施
- 回答結果を自動集計
- 集計作業に係る負担を軽減



報・連・相の電子化（Teams）

- Teamsを活用し、知事・副知事への報・連・相を電子化
- 報告・共有プロセスの時間を短縮
- 了の場合はリアクション、コメントの場合は
入力による返信が可能



- Microsoft365とネットワーク環境の整備により、庁内業務の効率化に向けた基盤が整いつつある
- 今後、各所属での活用拡大と運用の定着に向け、引き続きご理解とご協力をお願いしたい



議題 3 業務効率化・質向上に向けたNARA AIの活用について

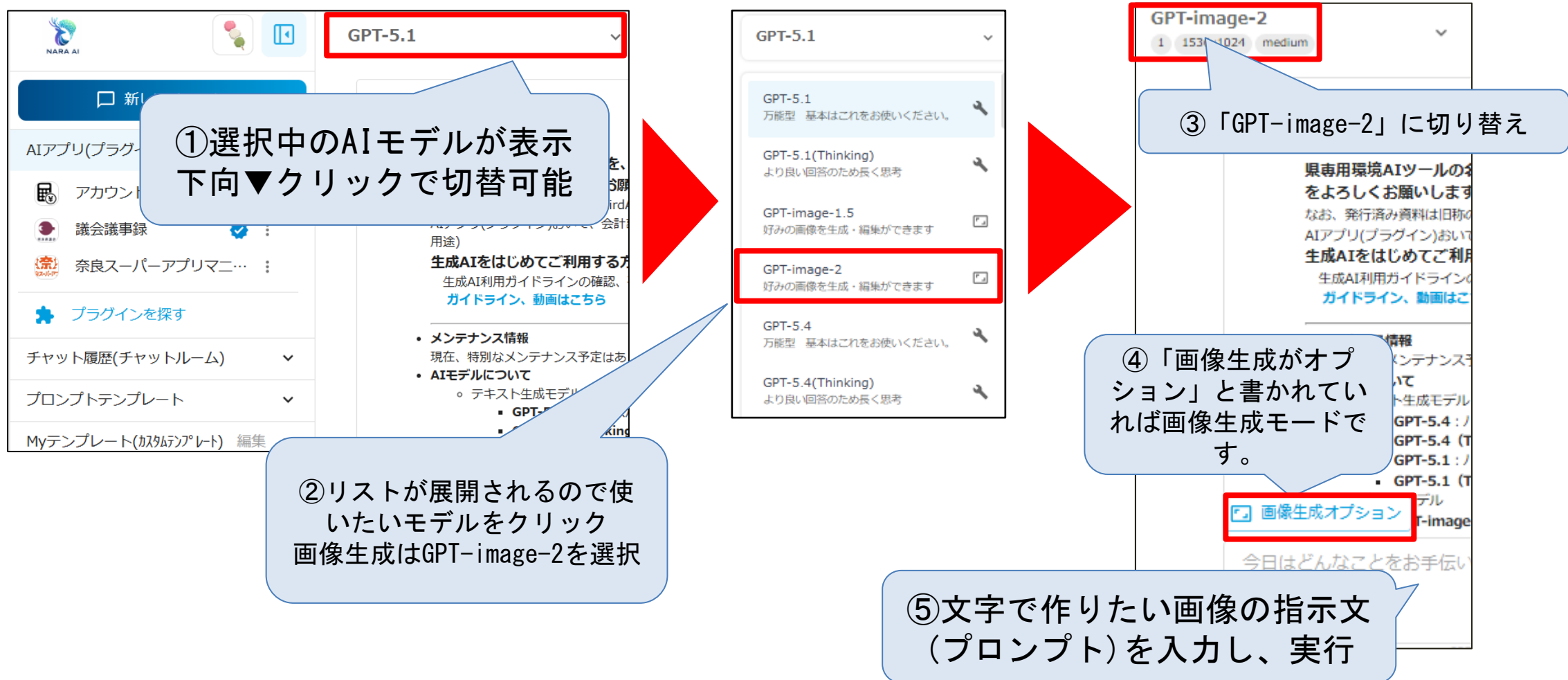
NARAAI（ナラアイ）を活用
した画像生成マニュアル

奈良県デジタル戦略課

画像生成のやり方(モデル切り替え方)

画像を生成するには画像生成モデル(GPT-image-2)に切り替える必要があります

AIモデルの切り替え(画像生成の仕方)



画像生成AIを使ってスライド画像を作成した実例

資料構成要素の概要を入れるだけでも一定レベルの資料化が可能

プロンプト

下記の内容を1枚のスライドにまとめてください。

- ・生産年齢人口が急激に減少し、今後、人材確保がさらに困難になる。
出生数は、現在52歳の方が生まれた1973年に比べて1／3
採用試験の競争率も、約10年前比で1／2
- ・量の確保の問題と質の確保の問題が生じている。
- ・行政機能維持のためには、一人あたり「3～6倍程度」の業務効率化が不可避。

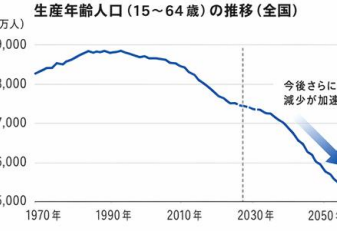
生成画像を使ったサンプルスライド

人口減少の加速により、人材確保がさらに困難に

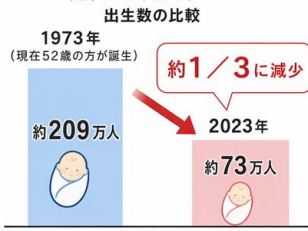
量の確保の問題と質の確保の問題が生じ、行政機能維持のための抜本的な業務効率化が不可避

1. 人材確保を取り巻く厳しい現状

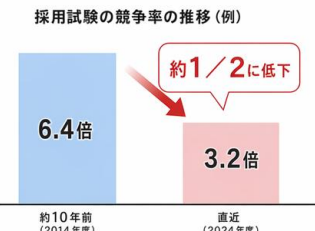
① 生産年齢人口が急激に減少し、今後、人材確保がさらに困難になる。



② 出生数は、現在52歳の方が生まれた1973年に比べて1／3
（知事1968年生まれ）



③ 採用試験の競争率も、約10年前比で1／2



2. 「量の確保」と「質の確保」の両面での課題



量の確保の問題

- ・生産年齢人口の減少により、人材の母数自体が縮小
- ・採用競争の激化により、必要な人数の確保が困難に



質の確保の問題

- ・人材獲得競争の中で、十分な能力・経験を持つ人材の確保が困難に
- ・多様化・複雑化する行政課題に対応できる人材の育成も急務

3. 行政機能維持のために 不可避な対応

行政機能を維持していくためには、
一人あたり「3～6倍程度」の業務効率化が不可避

（主な取組の方向性）

デジタル・AIの徹底活用

業務プロセスの見直し・標準化

組織・執行体制の最適化

外部人材・民間活力の活用

職員の能力向上・働き方改革



画像生成におけるこれまでの懸念事項

<改善できた課題>

- 1. 作るたびにテイストが変わる。同じプロンプトでも仕上がりが変動
- 2. 調整が難しい(微調整を指示すると全く違う仕上がりになることも)
- 3. 日本語表記が下手
- 4. 生成した画像履歴の有無

- 本マニュアルで対応
- 本マニュアルで対応
- GPT-image-2で改善
- チャット履歴から容易に復元可能

<現状の課題> ※技術進化により将来的に解決は見込まれるが現状難しいこと

- ・複数スライドを1回の指示で作成すること
- ・イラストの調整

- 1指示1枚の生成
- 細かい一部の修正は不得意

同じプロンプトで出来上がったスライド テイストが一定ではない

① 業務効率化について

目的 生産年齢人口減少を踏まえ、業務効率化の必要性・緊急性を理解してもらう

背景・現状認識

① 生産年齢人口が急激に減少

今後、人材確保がさらに困難になる見込み

生産年齢人口（15～64歳）の推移と見通し



② 出生数の比較

現在52歳（1973年生まれ）時点の出生数に対し、現在は約1/3

（参考）知事は1968年生まれ

出生数の比較



③ 採用試験の競争率低下

約10年前と比べて競争率が1/2に低下

採用試験（行政職）の競争率の推移



課題

量の確保の問題

職員数（人手）を十分に確保できない

質の確保の問題

スキル・経験を備えた人材の確保が困難

メインメッセージ

- 行政機能を維持するには、一人あたり「3～6倍程度」の業務効率化が不可欠
- 業務効率化は「必要」であるだけでなく「緊急性」が高い

人口減少の加速により、人材確保がさらに困難に

量の確保の問題と質の確保の問題が生じ、行政機能維持のための抜本的な業務効率化が不可欠

1. 人材確保を取り巻く厳しい現状

① 生産年齢人口が急激に減少し、今後、人材確保がさらに困難になる。

生産年齢人口（15～64歳）の推移（全国）



② 出生数は、現在52歳の方が生まれた1973年に比べて1/3

（知事1968年生まれ）

出生数の比較



③ 採用試験の競争率も、約10年前比で1/2

採用試験の競争率の推移（例）



2. 「量の確保」と「質の確保」の両面での課題

量の確保の問題

- 生産年齢人口の減少により、人材の母数自体が縮小
- 採用競争の激化により、必要人数の確保が困難に

質の確保の問題

- 人材獲得競争の中で、十分な能力・経験を持つ人材の確保が困難に
- 多様化・複雑化する行政課題に対応できる人材の育成も急務

3. 行政機能維持のために不可欠な対応

行政機能を維持していくためには、一人あたり「3～6倍程度」の業務効率化が不可欠

（主な取組の方向性）

- デジタル・AIの徹底活用
- 業務プロセスの見直し・標準化
- 組織・執行体制の最適化
- 外部人材・民間活力の活用
- 職員の能力向上・働き方改革

人材確保の困難化と業務効率化の必要性

生産年齢人口が急激に減少し、今後、人材確保がさらに困難になる。

出生数の大幅減少

出生数は、現在52歳の方が生まれた1973年に比べて1/3に減少

約209万人（1973年） vs 約72万人（2023年）



採用試験の競争率の低下

採用試験の競争率も、約10年前比で1/2に低下

約9.4倍（2014年度） vs 約4.7倍（2024年度）



量の確保の問題と質の確保の問題

量の確保の問題

- 生産年齢人口の減少により、必要な人材の確保が困難に
- 採用の競争率低下により、充足がさらに厳しくなる

質の確保の問題

- 行政課題の複雑化・高度化に伴い、専門性やデジタルスキルなど、求められる能力が高制度化
- 限られた人材の中で、高いパフォーマンスを発揮できる人材の確保・育成が急務

行政機能維持のためには、一人あたり「3～6倍程度」の業務効率化が不可欠。

限られた人材で県民サービスを将来にわたり維持・向上していくため、デジタル化や業務改革（BPR）など、抜本的な効率化に取り組みます。

※数値は概数または一例であり、今後の推移・調査により変動する可能性があります。

プレゼン資料(複数枚にわたる資料)作成

＜プレゼン資料におけるポイント＞

複数枚の資料のテイストが均一的でなければならない→細かい指示書が必要

ステップ1：全体構成→骨子を作る

ステップ2：骨子から各スライドごとに要素化をする。 (通常モデルGPT-5.4等)

ステップ3：作業指示書を起こす。 (通常モデルGPT-5.4等)

ステップ4：画像生成 (画像モデルGPT-image-2)

ステップ5：調整 (画像モデルGPT-image-2)またはパワポ

ステップ1：骨子を作る（本説明では以下骨子ができたところから開始）

<スライド〇頁>

骨子構成

- **タイトル**：〇〇〇について
- **メッセージ**：〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
- **具体的な内容**
 - ・ 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 - ・ 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 - ・ 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 - ・ 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

<スライド1頁>

骨子例

- **タイトル**：業務効率化について
- **メッセージ**：業務効率化の必要性和緊急性が高まっている
- **具体的な内容**
 - ・ 生産年齢人口が急激に減少し、今後、人材確保がさらに困難になる。
出生数は、現在52歳の方が生まれた1973年に比べて1/3
(知事1968年生まれ)。
 - ・ 採用試験の競争率も、約10年前比で1/2
 - ・ 量の確保の問題と質の確保の問題が生じている。
 - ・ 行政機能維持のためには、一人あたり「3～6倍程度」の業務効率化が不可避。

<スライド2頁>

骨子例

- **タイトル**：生成AIの活用について
- **メッセージ**：生成AIの活用が進んでいない
- **具体的な内容**
 - ・ 業務効率化にはデジタル技術の活用が有効だが、生成AIの活用は進んでいない。
 - ・ 世界各国では、生成AIの活用が当たり前。
 - ・ 日本は生成AI活用が遅れている。
 - ・ さらに国内の市区町村の中でも、奈良県内市町村での活用は特に遅れている
「生成AI導入済市区町村」は全国で51%、奈良県は21%

<スライド3頁>

骨子例

- **タイトル**：奈良県庁の生成AIの活用状況について
- **メッセージ**：奈良県庁も生成AIの活用を進めている
- **具体的な内容**
 - ・ 生成AI活用に関する県庁の取組状況。
 - ・ 令和6年度に議会答弁事務などの分野で実証し、一定の業務効率化効果を確認した。
 - ・ 今年度さらに問い合わせ自動対応などの分野に活用を拡大し、精度向上を図りながら本格導入を始めたところ。

ステップ2：骨子から各スライドごとに要素化をする。

①

GPT-5.4

②

新しいチャット

AIアプリ(プラグイン) ▾

チャット履歴(チャットルーム) ▾

プロンプトテンプレート ▴

アカウントサーチ ▾

議会事務 ▾

スライド作成 ▴

2_スライド要素化 ⋮

3_スライド作成作業指示書 ⋮

4_16:9スライド画像作成

①GPT-5.4などの言語モデルが適用されているか確認
⚠ 画像生成モデルでは実行しない

②左サイドメニューより、
プロンプトテンプレート > スライド作成
> 2_スライド要素化 を順に選択

③

・ AIモデルについて
o テキスト生成モデル
カスタム ▾ GPT-5.4 : パ
GPT 5.4 / TL

以下のスライド骨子から各スライドの構成を抽出し、書き出してください。
スライドテキストは行政がつかうシンプルかつわかりやすいように

ルール
- **Markdown形式**で、出力
- コードブロックには**要素のみ**を入れる
- 全スライド分を同一のコードブロックに入れる。

④

スライド骨子
(ここから骨子を上書きで貼り付けてください)

📎 ✎ 📊 データ分析 🖼️ 画像作成

GPT may produce inaccurate information about people, places, or facts

⑤

▶

③入力欄に指示が自動入力される

④この部分にステップ1の骨子（全体）を上書き

⑤実行

生成サンプル

markdown

1 # スライド1 業務効率化について
2 - タイトル
3 - 業務効率化について
4 - ねらい
5 - 業務効率化の必要性と緊急性を共有する
6 - メッセージ
7 - 生産年齢人口の減少により、行政運営に必要な人材確保は今後さらに難しくなる
8 - 行政機能を維持するためには、業務効率化が不可欠
9 - 構成要素
10 - 現状認識
11 - 生産年齢人口の急激な減少
12 - 出生数は1973年比で約3分の1
13 - 採用試験競争率は約10年前比で約2分の1
14 - 課題整理
15 - 人員の「量」の確保が難しい
16 - 専門性・経験の「質」の確保も難しい

📄

ステップ3
で使用する
のでコピー

7

ステップ3：作業指示書を起こす。

①

GPT-5.4

②

新しいチャット

AIアプリ(プラグイン)

チャット履歴(チャットルーム)

プロンプトテンプレート

アカウントサーチ

議会事務

スライド作成

2_スライド要素化

3_スライド作成作業指示書

4_16:9スライド画像作成

① GPT-5.4などの言語モデルが適用されているか確認

⚠ 画像生成モデルでは実行しない

② 左サイドメニューより、プロンプトテンプレート > スライド作成 > 3_スライド作成作業指示書を順に選択

③ 入力欄に指示が自動入力される

④

以下に貼り付けたスライド要素をもとに、**入力するためのスライド用プロンプト**を作成してください。

ルール

- **スライド1枚につき1プロンプト**で出力する

- 各プロンプトは**その1枚だけで完結**する内容にする

- **画像生成AI向けの完成プロンプト**として書く

- **Markdown形式**で、スライドごとに見出し+コードブロックで出力する

- 各コードブロックには**完成プロンプト本文のみ**を入れる

設定ルール

- シンプル モノトーンすぎないように

- スライド比率: **16:9**

出力形式

スライド1

```text

ここに完成プロンプト

## スライド要素

△▲▽ここにスライド要素を上書きで張り付けてください。△▲▽▽

⑤ 実行

④ この部分にステップ2の要素（全体）を上書き

生成サンプル

スライド1

text

1. 16:9のプレゼンテーションスライド。清潔感のあるシンプルなデザイン。モノトーンすぎない落ち着いた配色（白背景、濃紺、青緑、グレー、アクセントに淡いオレンジ）、日本語。行政機関向け、余白を広く、読みやすいゴシック体。タイトルは「業務効率化について」。構成は左に「人口・採用環境の変化」、右に「行政運営への影響」。下部に追加メッセージの欄。左側には出生数の推移イメージを示す下向きラインチャートなど、1枚1枚にテーマに沿った内容を配置。右側には出生率の推移イメージを示す下向きラインチャートなど、1枚1枚にテーマに沿った内容を配置。右側には出生率の推移イメージを示す下向きラインチャートなど、1枚1枚にテーマに沿った内容を配置。

スライド2

text

1. 16:9のプレゼンテーションスライド。シンプルで洗練されたデザイン。白背景を基調に青・緑・グレー・淡いオレンジで構成。日本語。行政機関向けの信頼感ある見た目。タイトルは「生成AIの活用について」。上部に世界と日本の比較。下部に全国と奈良県の比較を配置した2段階構成。上部には「業務効率化の有力な手段として生成AIがある」という短い導入文を添え、先述の業務効率化のメリットと日本の現状を比較する大きく見やすい棒グラフを配置。下部には全国的導入状況と奈良県での導入状況を示す棒グラフを配置。右下に吹き出しで「活用への課題・改善の余地」と記載し、今後の可能性を示す。図表は数字が一目でわかるためのグラフ、簡潔なラベル、やわらかいアクセントカラー。メッセージとして「業務効率化にはデジタル技術の活用が有効だが、生成AIの活用は十分に進んでいない」「世界・国内地域と比べても、活用余地が大きい」を自然に組み込む。全体として比較が明快で、課題と可能性が同時に伝わるスライド。

スライド3

text

1. 16:9のプレゼンテーションスライド。シンプルで見やすい行政向けデザイン。白背景、濃紺と青緑を基調にアクセントで淡いオレンジ。日本語。冒頭のレイアウト、タイトルは「奈良県での生成AIの活用状況について」。中央に時系列のロードマップを大きく配置し、「実証」「検証」「導入」「本格導入」の4段階を左から右へ流れる形で表現。各段階に対応して、令和6年度は議会答弁業務等実証、一定の業務効率化効果を確認。今年度は問い合わせ自動対応導入対象拡大。精度向上を図りながら本格導入を開始。という内容を簡潔な日本語で配置。ロードマップの下または周辺に対象業務の拡大イメージとして、議会事務、問い合わせ対応、その他定例業務の3つをアイコン付きで示す。上部または右側に「奈良県県庁でも、実証から本格導入へと活用を進めている」というメッセージを配置。補足として「効果確認を踏まえ、無理なく段階的に拡大」という導入姿勢もわかりやすく入れる。全体は段階的な前進が伝わる、安心感と着実さのあるインフォグラフィックススライド。

ステップ4で使用するので1つつコピー

8



# ステップ4：画像を生成する

①

③

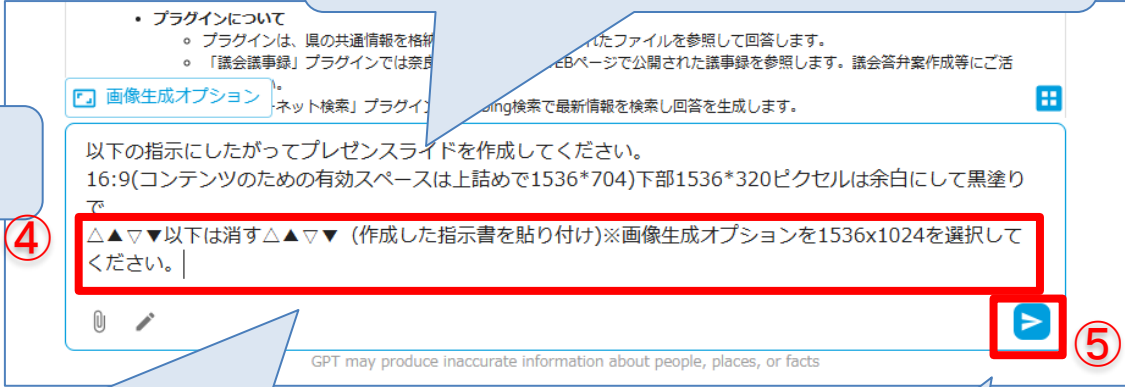
②

④

⑤



①GPT-image-2等の画像モデルが適用されているか確認



③入力欄に指示が自動入力される

④この部分にステップ3の作業指示書を上書き  
※1スライドずつ貼りつけて実行

⑤実行

②左サイドメニューより、  
プロンプトテンプレート > スライド作成  
➤ 4\_スライド画像作成を順に選択  
※スライドのサイズに応じて使い分け

### 生成サンプル

**日本、そして奈良県内市町村の生成AI活用は遅れている**

業務効率化にはデジタル技術の活用が有効だが、生成AIの活用は進んでいない。

**業務効率化の鍵はデジタル技術の活用**

✓ 業務効率化にはデジタル技術の活用が有効  
⚠ しかし、生成AIの活用は進んでいない

**世界各国では、生成AIの活用が当たり前**

生成AIを積極的に活用し、業務効率化やサービス向上を実現

| 国      | 生成AI活用状況             |
|--------|----------------------|
| アメリカ   | 行政・自治体での生成AI活用が急速に拡大 |
| イギリス   | 政府各局で生成AIの活用を推進      |
| シンガポール | 行政DXの中心に生成AIを位置づけ    |
| エストニア  | デジタル先進国として積極的に活用     |

**生成AI導入済 市区町村の割合**

| 地域  | 割合  |
|-----|-----|
| 全国  | 51% |
| 奈良県 | 21% |

全国の市区町村のうち、約半数が導入済  
奈良県内の市区町村では、導入はわずかなる2割

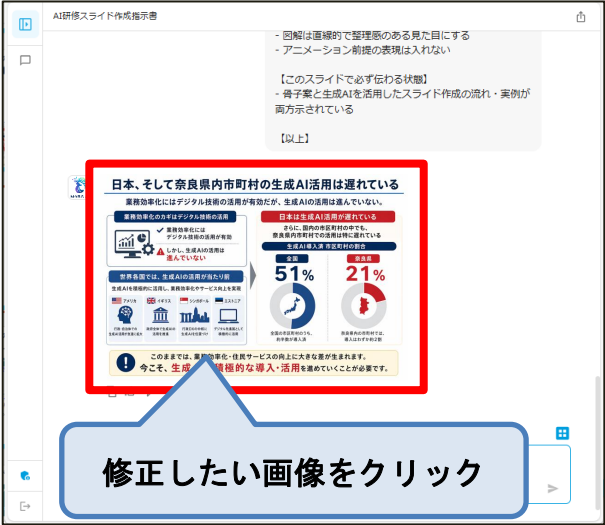
このままでは、業務効率化・住民サービスの向上に大きな差が生れます。  
今こそ、**生成AIの積極的な導入・活用**を進めていく必要があります。

2枚目以降のスライドも  
①～⑤を繰り返して  
順番に作成

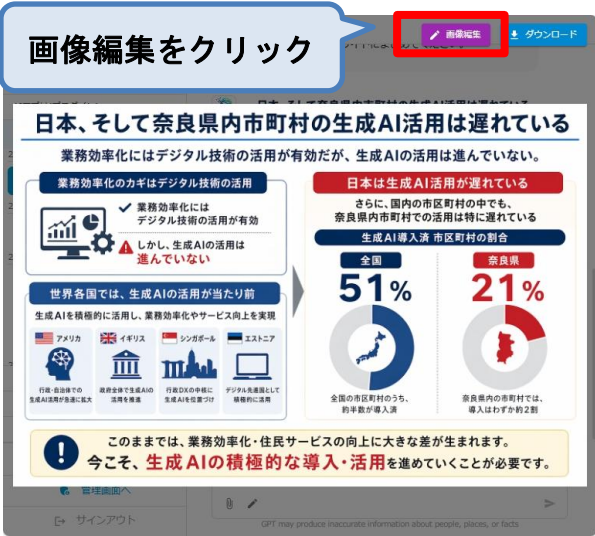
# ステップ5 調整（編集方法）①(生成画像そのものを修正)

修正方法

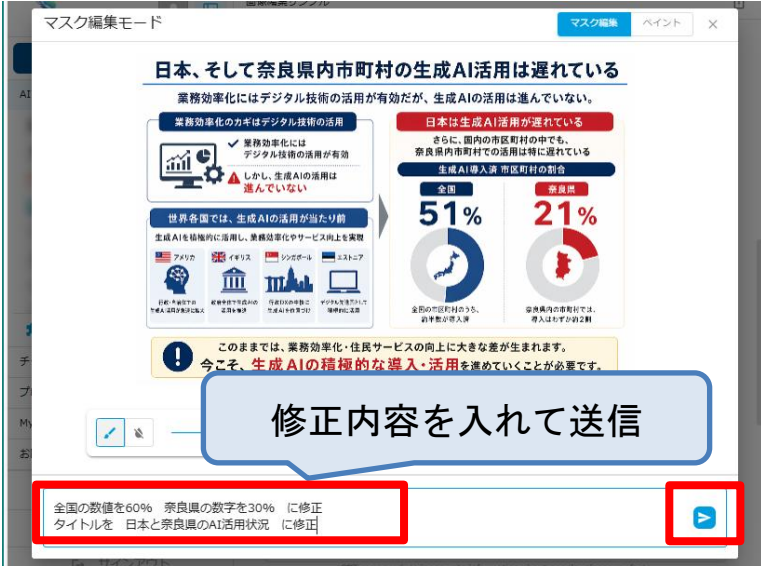
①生成画像を選択



②画像編集をクリック



③編集したい内容を指示文（プロンプト）を入力し、送信



仕上がり

before

日本、そして奈良県内市町村の生成AI活用は遅れている

業務効率化にはデジタル技術の活用が有効だが、生成AIの活用は進んでいない。

業務効率化の力はデジタル技術の活用

業務効率化にはデジタル技術の活用が有効

しかし、生成AIの活用は進んでいない

世界各国では、生成AIの活用が当たり前

生成AIを積極的に活用し、業務効率化やサービス向上を実現

アメリカ イギリス シンガポール エストニア

行政・自治体での生成AI活用が急速に拡大 政府全体で生成AIの活用を推進 行政DXの中心に生成AIを位置づけ デジタル先進国として積極的に活用

全国 51%

奈良県 21%

全国の市区町村のうち、約半数が導入済

奈良県内の市町村では、導入はわずか約2割

このままでは、業務効率化・住民サービスの向上に大きな差が生まれます。今こそ、生成AIの積極的な導入・活用を進めていく必要があります。

after

日本と奈良県のAI活用状況

業務効率化にはデジタル技術の活用が有効だが、生成AIの活用は進んでいない。

業務効率化の力はデジタル技術の活用

業務効率化にはデジタル技術の活用が有効

しかし、生成AIの活用は進んでいない

世界各国では、生成AIの活用が当たり前

生成AIを積極的に活用し、業務効率化やサービス向上を実現

アメリカ イギリス シンガポール エストニア

行政・自治体での生成AI活用が急速に拡大 政府全体で生成AIの活用を推進 行政DXの中心に生成AIを位置づけ デジタル先進国として積極的に活用

日本(全国) 60%

奈良県 30%

全国の市区町村のうち、約6割が導入済

奈良県内の市町村では、導入はわずか約3割

このままでは、業務効率化・住民サービスの向上に大きな差が生まれます。今こそ、生成AIの積極的な導入・活用を進めていく必要があります。

編集結果

編集結果

# ステップ5 調整（編集方法②）（パワポに生成画像を貼り付けた後微調整）

before

## 画像生成AIを使ってスライド画像を作成した実例

画像生成AIが進化し、日本語フォントも正確に表現可能となり、資料作成の質が向上  
骨子案→画像生成→スライド化の一連のプロセスを理解しましょう。

### プロンプト

- 上記の内容を1枚のスライドにまとめてください。
  - 生産年齢人口が急激に減少し、今後、人材確保がさらに困難になる。
  - 出生数は、現在52歳の方が生まれた1973年に比べて1/3（知事1968年生まれ）。
  - 採用試験の競争率も、約10年前比で1/2
- 量の確保の問題と質の確保の問題が生じている。
- 行政機能維持のためには、一人あたり「3～6倍程度」の業務効率化が不可欠。

### 生成画像を使ったサンプルスライド

サンプルスライド

生成画像例  
(ダミー)

実際のスライド例  
(ダミー)

after

## 画像生成AIを使ってスライド画像を作成した実例

資料構成要素  
タイトル、メインメッセージ、根拠数値などを入れることで一定レベルの資料化が可能

### プロンプト

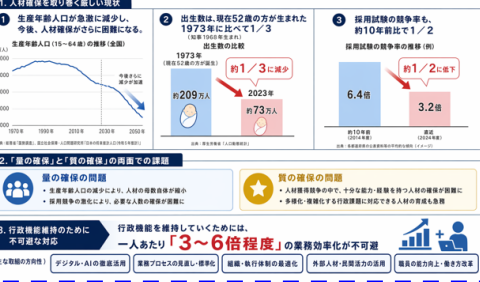
下記の内容を1枚のスライドにまとめてください。  
・生産年齢人口が急激に減少し、今後、人材確保がさらに困難になる。  
出生数は、現在52歳の方が生まれた1973年に比べて1/3  
採用試験の競争率も、約10年前比で1/2  
・量の確保の問題と質の確保の問題が生じている。  
・行政機能維持のためには、一人あたり「3～6倍程度」の業務効率化が不可欠。

上記の内容を1枚のスライドにまとめてください。

### 生成画像を使ったサンプルスライド

#### 人口減少の加速により、人材確保がさらに困難に

量の確保の問題と質の確保の問題が生じ、行政機能維持のための抜本的な業務効率化が不可欠

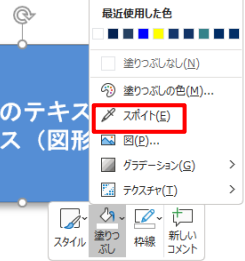


## パワーポイントに画像で張り付けた後、上から張り付けることによりテキストを崩さず編集することが可能

手法①  
形を合わせる  
修正するコメントを入れる

似た形のテキスト  
ボックス（図形）

手法②  
色を合わせる  
スポイト機能を使って同色にする



似た形のテキスト  
ボックス（図形）

手法③  
隠す  
背景と同じ色の図形を  
作って上にのせて隠す

手法④  
トリミングする  
画像のサイズを調整する

